

以上一篤信者との對話を、綴り賢聖の御批判御教正を待ちます。南無妙法蓮華經 以上

人間生活と物

古 谷 智 謙

人間生活と物——それは切つても切れない關係にある、人間生活は物が無ければ營まれないからだ。その關係を御妙判に拜すると、『但有待の依身なれば着ざれば風身に泌み、食はざれば命持ち難し。燈に油を注がず、火に薪を加へざるが如し、命いかでかつぐべきやらん。命つづき難くつづべき力絶てば、或は一日乃至五日既に法華經讀誦の音も絶えぬべし』〔縮一八五九、松野殿女房御返事〕と、本化上行の御身もやはり人間的生活には變りはなかつた。

物——とりわけ衣食だけでも吾人の生活から引離すことの出来ない關係にあるのだ。故に物を離れて吾人の生活はなく、吾人生活のすべては物だとさへ云ひ得る。

然しながら物のみの生活——、それが人間生活の理想であつてはならないのだ。

然らば所謂精神生活といふのか？

否！精神生活といふも畢竟物質の上に建てられた生活であつて、物質を度外視して精神生活といふものはあり得る。

こゝに於て吾人は若し、物質に不自由なくして日夜懊惱する人と、身乞食の低さにありて心中光風齊月を賞する人ありとすれば、恐らく兩者は吾人の理想とするに足らざるを思ふだらう……………。

物心協調の向上！！換言すれば、物に對する透徹なる認識に依る開顯、即ち物質生活の徹底的靈化。これこそ人間生活の眞の理想であらねばならない。

山里の一年

半田 淀車

- 鳥なきて朝霧はれる遠山に櫻咲くにや紅の棚雲
- せゝらぎの枕に附きて小夜更ける風なき窓に月ぞかたむく
- 下り行く坂道けはし山里に落葉音なく時兩降るかな
- 身に泌みる寒さに集ういろり邊に竹のふしをれ耳にするなり